



平成19年度体験型海外教育実地研究 参加者成果報告書

平成 20 年 3 月

広島大学大学院教育学研究科
広島大学グローバル・パートナーシップ・スクール・センター
(米日財団奨学寄付金事業)

目 次

1. 第4学年	図画工作「Paper Plane」 教育学研究科学習科学専攻学習開発専修 中井 俊之 ……………	1
2. 第5学年	異文化理解「Japanese culture FUKUWARAI ☆」 教育学研究科学習科学専攻学習開発基礎専修 森 俊郎 ……………	7
3. 第3学年	異文化間教育「Let's communicate by gesture !」 教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修 浅野 博子 ……………	13
4. 第5学年	社会科「色々な地図」 教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修 大村 正樹 ……………	19
5. 第5学年	書道「毛筆で漢字を書いてみよう」 教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修 庄野 修一 ……………	25
6. 第2・3学年	音楽「『静寂』を感じて『日本の音』を楽しもう !!」 教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修 矢野和佳子 ……………	31
7. 第5学年	算数「五目並べ」 教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修 鷲見 勝司 ……………	37
8. 第5学年	言語「地球の人も言葉もつながっている! -日本の文化と言語-」 教育学研究科言語文化教育専修 国語文化教育専攻 吉浪 徳香 ……	43
9. 第7学年	総合的な学習「Tシャツデザインを通じた平和理解」 教育学研究科 教育学専修 小野 智子 ……………	55
10. 第4学年	Culture Education 〈Arts and Crafts〉 Let's enjoy! Let's exchange! The 「Origami」 東広島市立三ツ城小学校 榎並 愛子 ……………	61

体験型海外教育実地研究 - 第4学年図画工作「Paper Plane」-

広島大学大学院教育学研究科学習科学専攻学習開発専修 中井 俊之

1. はじめに

普段から目にする事のあった海外の教育についての文献や映像から欧米の教育は日本も見習うべき点が多いのではないかと感じていた。この機会に学校訪問や授業実践などを通して海外の教育を自分の目で見て、感じてみようと思ったからである。

2. 実地研究の日程と概要

		交通等	訪問地・用務等	泊
4/11	火	1210-1240 L304	履修等、説明会	
5/31	木	1435-1605 L304	オリエンテーション ミニ講演会・フォーラムの打ち合わせ	
6/8	金	1300-1500 C527	ミニ講演会	
6/9	土	1300-1730	広島ガーデンパレス 第3回学校間交流国際フォーラム	
7/5	木	1435-1605	事前研究1 個別研究テーマの設定 授業実践研究の内容と方法 日本文化の紹介(エクスプローリス・ミドルスクール) について内容と方法の打ち合わせ	
8/2	木	1435-1605	事前研究2 授業の教材開発と指導法研究 指導案・教材・教具の交流と検討	
8/30	木	1330-1605	事前研究3 指導案・教材・教具の交流と検討 日本文化の紹介(エクスプローリス・ミドルスクール) について内容と方法の打ち合わせ	
9/11	火	1435-1700	直前打ち合わせ 日程などの確認 渡航準備 日本文化の紹介(エクスプローリス・ミドルスクール)の内容と方法	
9/15	土	広島-成田 0745-0925 (NH-3128) 成田-ワシントン 1110-1040 (NH-2) ワシントン-ローリー 1240-1359 (UA-459)		米国ノースカロライナ州 Raleigh <u>Marriott Crabtree Valley</u> 4500 Marriot Dr, Raleigh, NC27612 TEL(919)781-7000 FAX(919)781-3059
9/16	日		East Carolina University	Greenville

			事前打ち合わせと準備	<u>City Hotel & Bistro</u> 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC27834 TEL(877)271-2616
9/17	月		Elmhurst E.S (Ms. Suzanne Hachmeister) 学校見学	Greenville 同上
9/18	火		Elmhurst E.S (Ms. Suzanne Hachmeister) 授業実践	Greenville 同上
9/19	水		Duke University	Raleigh <u>Sheraton Raleigh</u> 421 S. Salisbury Street Raleigh NC27601 TEL (919)834-9900
9/20	木		Exploris M.S. 日本文化の紹介 Exploris Museum Natural Museum	Raleigh 同上
9/21	金	ローリーーワシントン 1025-1131 (UA-7139) ワシントンーニューヨーク 1230-1351 (UA-7365)	ニューヨーク観光	New York <u>Raddison</u> <u>Lexington Hotel</u> 511 Lexington Avenue 48 th Street New York 10017 TEL(212)755-4400
9/22	土		ニューヨーク観光	New York 同上
9/23 9/24	日 月	ニューヨークー成田 1230-1525 (NH-9) 成田ー広島 1725-1900 (NH-3129)		機内泊

3. 実地研究授業

3.1 単元等名 第4学年図画工作「Paper Plane」

3.2 事前準備

授業準備にあたって、日本折り紙ヒコーキ協会の紙ヒコーキ博物館を訪問し、紙飛行機

の基本を指導していただき、紙飛行機についての資料やアメリカの子どもたちでもできる紙飛行機や紙の素材、授業のアイデアなどについての助言をいただいた。

3.3 学習指導案

Lesson Author: Toshiyuki Nakai

Date: September

Subject: Cultural Studies

Description: Maybe students know paper plane. But they know some types. The teacher shows students various type of paper plane, and students make paper plane and fly their own plane.

Goal: This lesson will encourage students to make paper plane. It will also help students understand Japanese culture.

Objectives: As a result of this activity, the children will be able to :

- 1 Understand Japanese Culture of paper with paper plane.
- 2 Play paper plane that the made.

Materials, Resources and Technology : For this lesson, the teacher would need two types of paper plane. Some is a sample to show students what a paper plane is, the other is for student. The teacher would show various type of paper plane that is unique and hard to make for students.

Procedure:

After show the paper plane, the teacher will explain the way to make paper plane with paper. The teacher make groups 3 or 4, and distribute to the children the paper that show the way to make paper plane with paper that is drawn fold.

The teacher explain how to make paper with the big paper each process. (If some of children can not understand the way to make, the teacher encourage students to look the directions.)

At the next session, the teacher show the various type of paper plane that looks like rocket, space shuttle etc...

At the last session ,the teacher and students fly their own plane.

3.4 授業の実際

はじめに、授業で取り扱う紙飛行機(リング型)を提示し、それが何であるかを少し考えさせた。子どもたちからは、“王冠”、“腕輪”、“帽子”などの発言があったが紙飛行機という答えはあがらなかった。一般的な紙飛行機とは形状が異なっているので、子どもたちは実際に飛行機が飛ぶ様子を見せるとかなり興奮した様子で興味を持っていた。1人子どもを指名して

飛行機を飛ばさせようとするので次から次へと手が挙がり、「作ってみたい？」ときくと「YES!!」という声がたくさん返ってきた。

次に、子どもたちに紙を1人一枚配り、製作に移った。このとき使用した紙は、日本で購入したA4のコピー用紙である。製作の際に、教室前の黒板に製作工程を子どもたちが使う紙と同様のものので一段階ずつ示した模造紙を提示した。模造紙には、子どもたちが使う同様の紙で紙飛行機を一段階ずつ、一つ一つつくり、それらを各工程が英文で示してある模造紙に貼り、折り目がわかるようにその部分はマジックで示し、さらに折り目の部分だけが動いて折り方がわかりやすいようにした。

さらに子どもたちの紙のサイズの10倍程度の大きさの教師用の紙を用意し、全体に作り方を示すための見本となるようにした。模造紙で工程を一つずつ説明し、大きな見本を持って全体を回りながら、できていない子どもの補助を行った。日本の子どものように綺麗に折れている子はほとんどいなかった。たいていの場合、折り目が曲がっていたり、丸くなっていたりと子どもたちにとって「折る」という活動が予想以上に難しいものであったようである。製作工程を一段階ごとに全員ができたかを確認し、次の工程へと移った。

全員が完成した後、教室の外に出て飛行機を飛ばした。(教室の外に出ることは事前に担任に許可をとっていた)授業の終わりにまた教室に戻り、その他の紙飛行機(スペースシャトル型、竹とんぼ型など)と示し、子どもたちに飛ばさせた。特に日本から事前で作って持っていったスペースシャトル型の紙飛行機は、事前準備でご指導いただいた日本紙ヒコーキ協会会長の戸田氏が考案されたもので、子どもたちの驚きようはすごかった。授業のまとめは、紙飛行機はどこにでもある紙一枚で作ることができること、紙の持っている可能性には限りがないこと、それと同じように皆が持っている可能性も限りがないことを伝えて授業を締めくくった。授業後に持っていった紙飛行機はすべてプレゼントした。

3.5 考察

アメリカでは折り紙という文化がないため、実際に今回取り上げた紙飛行機よりも複雑なものを授業で行う予定だったが、全員が飛ばすことができることを最低限の目標とし、日本の幼稚園児くらいであっても作れるくらいの単純な構造の飛行機を取り上げたが、予想以上に「折る」ということがアメリカの子どもにはできないのだと感じた。また、紙飛行機を作る上で、大きな助けになるだろうと考えていた製作工程を示すための英語の説明が細かく、小学生に言葉で伝えるのは苦戦した。英語の文章自体は紙飛行機の手順を正確に説明できていたはずだが、日本語の「折る」という行為が英語の“fold”という言葉だけでは上手く通じず、角と角を合わせて丁寧に折るというニュアンスが伝わらなかった。子どもたちはとにかく紙を折り曲げればよいのだと思って折っているようだった。折り方を教えるというより、「折ってあげた」という場面も多々あった。もう少し、わかりやすい説明を示すことができればよかったと感じている。

授業後に知ったことだが、訪問先のノースカロライナ州はライト兄弟が初めて有人動力飛行を成功させた地でもあり、街中を走る車のナンバープレートには“First Flight”の文字が記されているほどである。その点を紙飛行機とつなげて考えることができれば、また別の授業の展開ができたかもしれない。今回は、教師の見本用として、大きな紙で飛行機を作ったが、子どもたちをグループに編成して、グループごとに力を合わせて大きな紙

飛行機をつくってみるという展開にしてみると、子どもたちの相互のかかわり合いが期待できるだろうし、折り方を互いに工夫しあうかもしれないし、少なくとも飛行機を”折ってあげる”授業にはならないかもしれない。

はじめに紙飛行機を見せたときの子どもたちの驚く様子と風に乗って自分たちの作った紙飛行機が風に乗って飛んでいく様子に興奮している子どもたちの姿が印象に残っている。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

アメリカの学校を訪問して印象に残っていることの一つに教室のいたるところにソーシャルスキルについての言葉が多く見られたことである。日米の文化的違いも考えなければならぬと思うが、ソーシャルスキルは子ども同士が一緒にいれば自然と身につくものだろうと思っていたが、人とかかわりというものは”教えるもの”なのだということを改めて感じた。その点について日米のどちらが進んでいるとか遅れているとかということはここでは別の問題として、子どもに生きていく力を教えることが「教育」で、だからこそ学校や教師といった専門的なものが存在しているのだと改めて強く感じた。

アメリカの学校訪問をしてみて感じたことは、教育に関わる人間の役割がはっきりしているということだった。学校に常駐のカウンセラーの部屋があったり、特別支援が必要な子には常にその子に付き添う人間がいたり、日本の教員1人がこなしている役割が、分散しているという印象を受けた。日本の教員は優秀だとも感じたが、同時に教師にすべてを求めすぎなのではないかということも感じた。

4.2 自分自身についての変容

10日間という短い期間ではあったが、短い期間だからこそ見たいもの、聞きたいことはできる限り体験したいと強く思うようになった。上手な表現を言葉でできなくても、体や表情で自分の思いを表現するというのも意識的にやるようになっていったと思う。また、アメリカの先生方や大学生と話す上で、日本の教育を引き合いに出すことが多く、その話題を話す上で、どういう特徴があるのかを考えながら話した体験は日本に帰ってきてからの日本の教育に対する新しい見方をするきっかけになったと感じている。

4.3 グローバルマインドに関する変容

アメリカの学校、日常生活、そこに住む人との関わりで、異文化を知る、違いを知るだけではなく、日本人という感覚が鋭くなっていったように、自分が日本人であることを強く感じる場面が多かった。授業では、自分の授業で何を伝えたいかということを考え、人との意見交流では、日本の特徴を考え伝えるという行為が自分自身をより深めるという経験になっていったと思う。

5. おわりに

10日間という短い時間の中で、学校訪問、英語での授業、アメリカの文化体験、意見交流など内容の濃い充実した体験ができた。よりいっそう自分の専門性を高めてまたの機会にこのような交流ができればよいと思う。また、このような貴重な経験をさせてくださった先生

方、両親、授業の事前準備にご指導いただいた紙ヒコーキ協会の方に感謝をしたい。